

証券コード：4554

第 **50** 期 報告書

# Fuji Pharma IR Report

2013年10月1日から2014年9月30日まで

株主・投資家の  
皆様へ



**FujiPharma**

## TOP MESSAGE



2015年4月、当社は設立50周年を迎えます。  
ブランド戦略と海外事業展開を中心とした  
新中期経営計画を策定。  
さらなる成長を目指してまいります。

代表取締役  
今井博文

### Q 市場環境と当期(2014年9月期)の 業績概要についてお聞かせください。

#### [市場環境について]

2013年4月に政府から発表された施策「後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」やDPC<sup>\*1</sup>病院機能評価係数<sup>II</sup><sup>\*2</sup>により、引き続きジェネリック医薬品市場の拡大が予想されます。一方、国内外の新薬メーカーによる市場参入が活発化するなど、市場環境は益々厳しいものとなっております。その様な市場環境の下、当社では、ジェネリック医薬品の品揃えと共に新薬の研究開発、導入を促進してまいります。

#### [業績について]

2013年9月の月経困難症<sup>\*3</sup>治療剤「ルナベル<sup>®</sup>配合錠ULD」<sup>\*4</sup>の発売により、従来の月経困難症治療剤「ルナ

ベル<sup>®</sup>配合錠LD)と共に売上拡大に貢献することができました。また、2013年12月には塩野義製薬株式会社より、産科・婦人科領域の4製品について製造販売承認の承継及び販売移管を行い、製品の拡充を図ることで多くの患者様に貢献しております。

### Q 急性期医療、女性医療領域における 当期の取り組みについてお聞かせください。

急性期医療分野については、昨年12月にマリノックロットジャパン株式会社が有していた非イオン性造影剤「オプチレイ<sup>®</sup>注」の国内における独占販売権を取得し、今年の6月には、同製剤の製造販売承認を承継しました。これらに伴い、画像診断領域での活動をさらに強化するため、営業本部内に「画像診断薬グループ」を新た



ルナベル® 配合錠ULD

に設置しました。

従来より販売しております非イオン性造影剤「イオパミン®注」(イオパミドール注射液)及び「イオパーク®注」(イオヘキソール注射液)に「オプチレイ®注」を加えることにより、造影剤市場における当社のプレゼンスを向上させ、当社の強みである注射剤を軸とした急性期医療分野において、より事業価値の向上を図ってまいります。

女性医療分野では、昨年9月に月経困難症治療剤「ルナベル®配合錠ULD」を発売しましたが、同製剤は、ノーベルファーマ株式会社が開発し、月経困難症を適応症とする女性ホルモン剤です。ノルエチステロン 1mg/エチニルエストラジオール 0.02mgの用量で月経困難症治療剤として承認された薬剤は、世界で初めてとなります。また、エチニルエストラジオールの含量は国内で販売されている類似薬のなかで最も低い量となっております。現在、月経困難症治療剤として、同じく女性ホルモン剤である「ルナベル®配合錠LD」(ノルエチステロン 1mg/エチニルエストラジオール 0.035mg)を販売していますが、「ルナベル®配合錠ULD」は、「ルナベル®配合錠LD」のエチニルエストラジオール含量を0.02mgに低用量化することで、重篤な副作用の発現をさらに低減することを目的として開発された製剤です。

当社は「ルナベル®配合錠LD」に加えて、「ルナベル®配合錠ULD」を新たに発売し、治療現場に月経困難症治療の新たな選択肢を提供することで、患者様のQOL<sup>※5</sup>向上に貢献してまいります。

### Q 新物流センターの開設など当期の主な取り組みについてお聞かせください。

今年の8月より、新たに西日本エリアの物流拠点として、大阪物流センター(兵庫県尼崎市)を設けました。これにより、従来の東京物流センターを含めて、物流センターの2拠点化により、地震等の災害時に発生し得る物流リスクを分散・軽減させることができます。また、配送まで時間のかかっていた関西以西エリアにおいては、配送時間を短縮することで、より迅速かつ安定的に医薬品を皆様のもとへお届けすることが可能となりました。当社は、さらなる皆様の健やかな生活に貢献してまいります。

### 2015年9月期 連結業績予想

売上高	32,030 百万円	(前期比 9.6%増)
営業利益	3,590 百万円	(前期比 13.1%増)
経常利益	3,560 百万円	(前期比 11.3%増)
当期純利益	2,260 百万円	(前期比 8.7%増)

### Q 中期経営計画のビジョンの最終年度である当期(2014年9月期)の活動についてお聞かせください。

富山工場では第5製剤棟の第Ⅰ期・Ⅱ期工事が完了し、注射剤のシリンジラインの製造能力を増強しました。昨年発売しましたフィルグラスチム製剤のバイオシミラー<sup>※6</sup>等、注射剤を軸とした急性期医療の充実に努めてまいりました。また、世界初の抗がん剤マルチ製造ライン体制構築により、より高度な無菌性保証を可能とし、三極(日本・米国・欧州)GMP<sup>※7</sup>モデルを実現することができました。

また、製品ラインアップとして、造影剤分野では非イオン性造影剤「オプチレイ<sup>®</sup>注」の製造販売承認を2014年6月10日付けで承継、及び女性医療分野では2013年9月に販売開始した「ルナベル配合錠<sup>®</sup>ULD」を中心にルナベル市場拡大を進めております。2014年4月には、当社グループの経営力をさらに強化するべ

く第三者割当増資による三井物産株式会社との資本業務提携を行い、タイ子会社であるOLIC(Thailand) Limited(以下、OLIC社)の成長戦略の推進を始めとした海外展開を深めております。当社グループの企業価値を最大化し、中長期的な観点から当社の既存株主・投資家の皆様の利益拡大に貢献できるものと判断いたしました。

### Q 2015年4月に設立50周年を迎えますが、次代のビジョンについてお聞かせください。

新たな中期経営計画のテーマは「Fujipharmaブランドディング」と名付け、国内外の医療に携わる人々、健康を願う人々とのもっと大きな信頼と共感と親しみを築き上げることを目指します。そして、わたしたちの成長・貢献の場を創り続けるために今の仕事の価値を引き上げることを中期経営計画の課題として、ブランド戦略と海外事業展開を中心とした中期経営計画を策定しました。ブランド戦略には、人の価値向上と共に、高

付加価値のブランド薬を含みます。また、海外事業展開では、国内外のアライアンス構築並びにOLIC社の受託事業強化を進め、新中期経営計画では、従来のジェネリック医薬品に加え、当社のブランド薬(新薬+承継品+バイオシミラー)の製造販売の強化、受託製造(CMO事業)の推進からなる独自の相乗発展モデルの創造を進めてまいります。

### Q 株主・投資家の皆様にメッセージをお願いします。

今中期経営計画でも皆様方のご期待にお応えすべく、Fujipharmaグループが一丸となってFujipharmaブランド製品としてコーポレートブランドの構築、付加価値の高い製品の製造・販売に挑戦し続けてまいります。

株主・投資家の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



コーポレートブランドの構築、高付加価値製品の製造・販売に挑戦し続けてまいります。

#### [語句説明]

※1 DPC: Diagnosis Procedure Combination=診断群分類とは、医療費の定額支払い制度に使われる評価方法で、入院医療包括的診療報酬制度として、2003年から厚生労働省が推進し、現在では全国で導入する病院が増加しています。

※2 DPC病院機能評価係数II: 2010年度からDPCの病院の診療報酬について、診療実績や医療の向上に基づいて医療機関が担うべき役割や機能を評価するインセンティブとして導入されたルール。「保険診療係数

「効率性係数」「複雑性係数」「カバー率係数」「救急医療係数」「地域医療係数」の6項目から算出されます。この係数が大きいほど高度な医療機能を有するとみなされ、そこに7項目として加わったのが「後発医薬品指数」です。

※3 月経困難症: 日常生活に支障をきたすほどの生理痛を生じる症状で、例えば、生理がくると「痛みがひどく、横たわっていないと耐えられない」「つらくて会社に行くことができない」などといった重い症状が、月経困難症の特徴です。臓器に病気があるために起こる器

質性月経困難症とホルモンの影響で起こる機能的月経困難症があります。

※4 「ルナベル<sup>®</sup>配合錠ULD」: 発現頻度は稀ですが、女性ホルモン剤に懸念される血栓症などの重篤な副作用の発現頻度をさらに低減する目的でエチニルエストラジオールの低用量化を進めた製剤です。

※5 QOL: Quality of Life(生活の質)

※6 バイオシミラー: 国内で既に承認されたバイオテクノロジー応用医薬品(先行バイオ医薬品)と同等・同質の品質及び安全性、有効性を有するものとして、異なる

製造販売業者により開発される医薬品と定義されております。

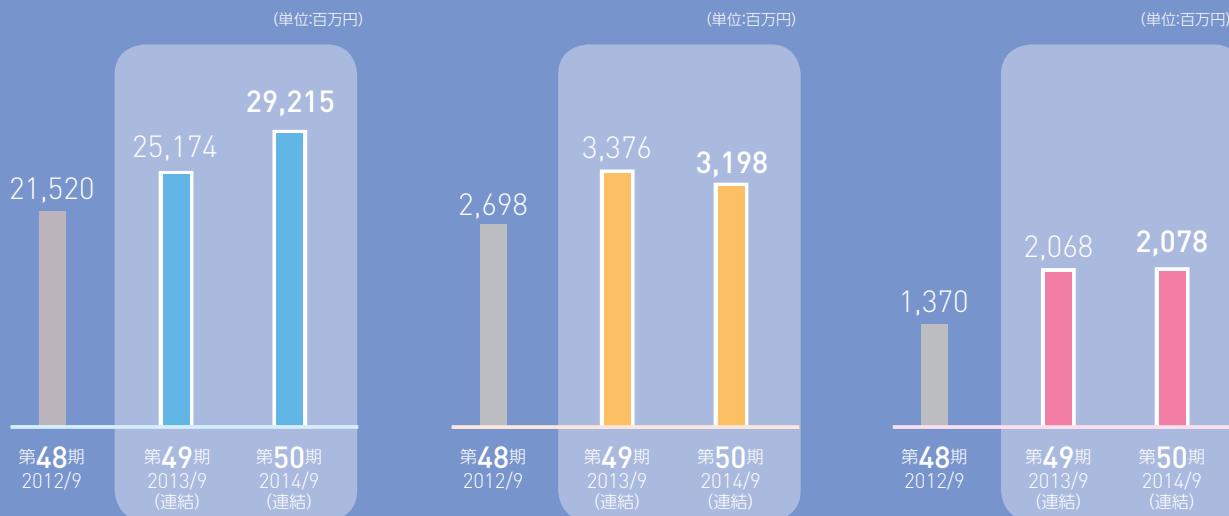
※7 GMP: 「医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理の基準に関する省令」という法令があり、医薬品の製造する者が守るべき内容を定めたものです。この「医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理の基準」を指して「GMP(Good Manufacturing Practice)」と略称しています。

急性期医療、女性医療領域ともに、既存の主力製品に加え、新たに製造販売承認を承継した先発薬などが順調に推移しました。

売上高  
292億15百万円

経常利益  
31億98百万円

当期純利益  
20億78百万円



## 売上高について

診断用薬は、既存の尿路・血管造影剤「オイパロミン」・「イオパーク」に加え、新たに製造販売承認を承継した非イオン性造影剤「オプチレイ®注」を中心に106億5,600万円となり、ホルモン剤は、月経困難症治療剤「ルナベル®配合錠ULD」及び「ルナベル®配合錠LD」、下垂体性性腺刺激ホルモン剤の「HMG筋注用」、「フォリルモン注」、子宮内膜症治療薬「ブセレキア」などを中心に95億1,100万円となりました。

## 収益について

オプチレイ®注などの販売移管に伴う費用、研究開発費、通期連結開始に伴う子会社の販売管理費、のれんの償却の増加等、販売費及び一般管理費が増加し、利益率を圧迫しました。

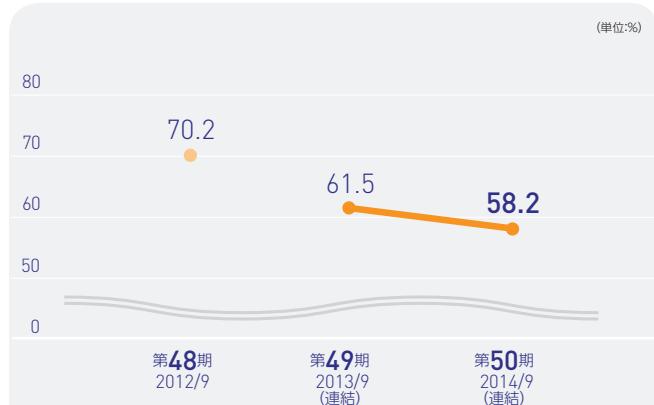
## ROA/ROE



ROAは、利益が伸びなかったうえ、販売移管に伴うたな卸資産・仕入債務等、総資産が増加したことにより7.3%となりました。

ROEは、販売移管に伴う費用、研究開発費の増加等、当期純利益が横ばいだった影響等により7.7%となりました。

## 自己資本比率



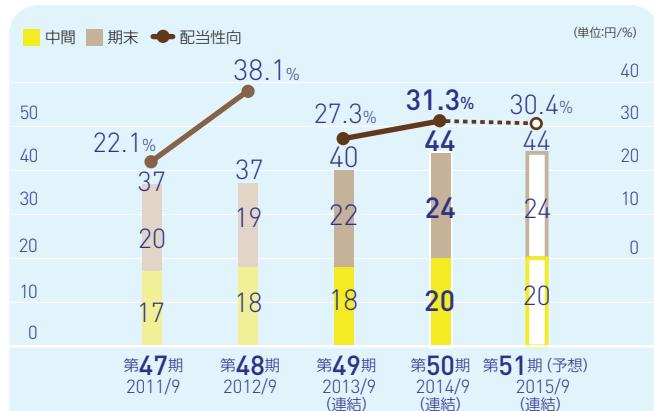
販売移管に伴う仕入債務や、機械装置の一部についてファイナンス・リースを開始したことに伴う負債の増加により自己資本比率は58.2%となりました。

## 研究開発費/設備投資額



研究開発費は、女性ホルモン製剤の新薬や抗がん剤の後発品の開発等を中心に17億6,900万円となりました。設備投資は、国内での投資が一巡し、OLIC社(タイ王国)での新注射剤工場建設工事等により10億7,300万円となりました。

## 1株当たり配当金/配当性向



当期は、年間44円/株(中間20円/株、期末24円/株)となり、連結配当性向は31.3%となりました。次期は、業績予想や今後の事業展開等を総合的に勘案し、年間44円(中間20円/株、期末24円/株)を予定しております。

※第47・48期については、当社単体の数値です。

### 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当 期 2014年9月30日現在	前 期 2013年9月30日現在
(資産の部)		
流動資産	33,168	23,772
現金及び預金	8,173	6,015
受取手形及び売掛金	11,623	9,697
たな卸資産	9,151	6,536
その他	4,217	1,520
固定資産	15,858	15,366
有形固定資産	10,465	10,506
無形固定資産	4,627	4,105
投資その他の資産	765	753
資産合計	49,027	39,138
(負債の部)		
流動負債	12,718	8,917
固定負債	7,764	6,153
負債合計	20,482	15,071
(純資産の部)		
株主資本	27,834	23,644
資本金	3,799	2,447
資本剰余金	5,023	3,672
利益剰余金	19,012	17,525
自己株式	△ 0	△ 0
その他の包括利益累計額	708	421
少数株主持分	1	0
純資産合計	28,544	24,066
負債純資産合計	49,027	39,138

### 連結損益計算書

(単位：百万円)

	当 期 2013年10月1日から 2014年9月30日まで	前 期 2012年10月1日から 2013年9月30日まで
売上高	29,215	25,174
売上原価	16,835	14,233
売上総利益	12,379	10,941
販売費及び一般管理費	9,206	7,679
営業利益	3,173	3,261
営業外収益	98	175
営業外費用	73	61
経常利益	3,198	3,376
特別利益	78	39
特別損失	44	82
税金等調整前当期純利益	3,232	3,332
法人税、住民税及び事業税	1,195	1,379
法人税等調整額	△ 41	△ 115
少数株主損益調整前当期純利益	2,079	2,068
少数株主利益	0	0
当期純利益	2,078	2,068

### 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当 期 2013年10月1日から 2014年9月30日まで	前 期 2012年10月1日から 2013年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,757	3,630
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,975	△ 6,601
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,293	3,743
現金及び現金同等物に係る換算差額	82	71
現金及び現金同等物の増減額	2,158	844
現金及び現金同等物の期首残高	6,521	5,676
現金及び現金同等物の期末残高	8,680	6,521

詳細な財務情報は、  
当社ホームページ 株主・投資家情報の  
IRライブラリをご覧ください。

富士製薬工業IR

検索

アドレスはこちら▼  
<http://www.fujipharma.jp/ir/library/index.html>

## 非イオン性造影剤「オプチレイ®注」 製造販売承認の承継について

当社は、昨年12月にマリックロッドジャパン株式会社から先発薬である非イオン性造影剤「オプチレイ®注」を販売移管し、これに伴い営業本部内に「画像診断薬グループ」を新設。また、本年6月10日付で製造販売承認を承継、製造販売元として、製品の供給及び情報提供・収集活動を行っております。

従来から販売している非イオン性造影剤「オイパロミン®注」（イオパミドール注射液）及び「イオパーク®注」（イオヘキソール注射液）に「オプチレイ®注」を加え、造影剤市場における当社のプレゼンスを向上させ、当社の強みである注射剤を軸とした急性期医療分野において、より事業価値を向上させてまいります。



「オプチレイ®注」

## 大阪物流センターの開設について

当社は、本年8月より、従来の東京物流センターに加え、大阪物流センターを稼働いたしました。これまで東京の物流センターから日本全国へ配送を行っていましたが、新たに西日本エリアに物流拠点を設けることで、地震等の災害時に発生し得る物流リスクを分散・軽減させるとともに、関西以西エリアに対する配送時間を短縮させることが可能となりました。

今後は、東西の物流センターを通じ、より迅速かつ安定的に医薬品をお届けし、さらに皆様の健やかな生活に貢献してまいります。

### 大阪物流センターの概要

#### 所在地

兵庫県尼崎市西向島町231-2  
GLP尼崎4階  
ヤマトロジスティクス株式会社  
大阪メディカルセンター内

#### 建物構造

RC造 耐火・制震構造



大阪物流センター



執行役員  
富山工場長兼  
品質管理部長

山崎由実子

### Profile

1980年 4月	当社入社
1997年12月	取締役
1998年12月	富山工場統括マネージャー
2007年12月	取締役退任
2008年10月	GMP推進室マネージャー
2014年10月	富山工場長(執行役員)兼 品質管理部長 (現任)

## 新富山工場長からのメッセージ

### ◇当社でのこれまでのキャリア

私は、当社に入社して以来、医薬品の研究開発、製造、品質管理、品質保証等の様々な業務を経験してまいりましたが、特に品質管理や品質保証に関する業務には長年従事し、現場の責任者として、安全で高品質な医薬品を安定して供給していくことに力を注いでまいりました。製薬企業として大変重要な「医薬品の品質や安全を確保する」仕事に、大変やりがいを感じるとともに、今までこのような責任のある仕事に関わってこられたのは、仕事を通じ社内外の多くの方々からご指導、ご支援があったからこそ感じております。

### ◇抱負について

グローバルな視点での製造管理や品質管理体制、信頼性保証体制の構築に取り組み、今後も患者様、医療機関の皆様へ、安心してお使いいただける高品質な医薬品を、継続的に安定供給していくことに尽力してまいります。

また、グローバル人材の育成推進や、製造技術の向上、収益力強化等に積極的に取り組み、当社の企業価値の向上を目指してまいりたいと思っております。



OLIC (Thailand) Limited

## 5ヶ年の中期経営計画を策定 さらなる業績拡大を目指します

OLIC(Thailand)Limited(以下、OLIC社)が富士製薬工業グループの一員となって早や2年が過ぎました。この間、会計期間の変更(12月決算を9月決算に変更)や基幹ITシステムの統合、内部統制システムの構築など、グループ会社としての基盤固めを行ってまいりました。そして、新たな注射剤工場棟の建設を決定し、2015年初めの着工、2017年からの商業生産開始に向けて、現在、準備を進めております。

また、OLIC社においても富士製薬工業グループとして、2014年10月から2019年9月(51期から55期)までの5ヶ年の中期経営計画を策定いたしました。2019年のあるべき姿及びその実現のための施策は、以下のとおりです。

### 2019年のあるべき姿

- 1 Sustainable Leading CMO in APAC**  
(アジア太平洋地域における製造受託のリーディングカンパニーを目指す)
- 2 Starting own brand business as a pharmaceutical company**  
(製薬企業として自社ブランド製品の販売を開始する)

### 実現のための施策

- A 既存の製造受託事業のさらなる拡大**
- B 新注射剤工場棟の早期立ち上げ**
- C アジア太平洋地域での自社製品展開のためのマーケティング**
- D 人材開発と社員満足**

これまでOLIC社は海外大手製薬会社向けの医薬品、ヘルスケア製品等の製造受託がメインでしたが、2017年以降は新注射剤工場棟において富士製薬工業向けの注射剤の製造を行い、日本市場向けに医薬品を供給するとともに、OLIC社で製造した製品を東南アジア市場において販売することを計画しています。



OLIC社  
Managing Director 上出 豊幸

新注射剤工場棟の建設には大きな設備投資資金と長い年月がかかりますが、富士製薬工業と一体となって高品質な製品の製造を実現しつつ、余剰キャパシティを活用して日本の他の製薬メーカーからの製造受託ビジネスを獲得し、高品質且つ低価格な製造を実現することを目指しております。

また、自社ブランド製品の販売といったこれまでとは違ったビジネスモデルを追加することになりますので、OLIC社にとって大きなチャレンジとなりますが、富士製薬工業の特徴ある製品群を東南アジア市場に浸透させるための基盤を今中期で具現化し、さらなる売上の拡大、利益の拡大を図り、富士製薬工業グループの海外での事業展開による業績拡大にしっかり寄与してまいりたいと考えております。

株主・投資家の皆様におかれましては、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



# 「Fujipharmaブランディング」

—— 新中期経営計画の実現に向けた取り組みの方向性を、  
営業本部の現場からご報告いたします ——

「Fujipharmaブランディング」をテーマとする新中期経営計画の策定に当たり、営業本部では、自らの強み・弱みに関する議論を通じて課題を抽出し、それらを改善・実現するための方向性をビジョンにまとめました。この過程で整理された営業本部の強みは、産科婦人科領域での幅広い品揃え、月経困難症治療剤「ルナベル®配合錠」における経験と産科婦人科施設での高い採用率であることを再確認し、また、急性期医療領域では、非イオン性尿路・血管造影剤「オイパロミン®注」の非常に高い採用率に加え、新たに非イオン性造影剤「オプチレイ®注」の製造販売承認を承継できたことで、X線造影剤メーカーの上位に食い込めた点な

どがあります。さらに、オンコロジー（がん治療）、画像診断、ウィメンズヘルス等、営業を支援する各専門部署があることも強みとなります。一方で、課題としては、データを活用した営業戦略の強化、新領域への挑戦、「Fujipharmaブランディング」という視点での営業を可能とする教育体制の確立などがあがりました。

今後、当社が得意とし、また引き続き注力する産科婦人科と急性期医療領域においては、新薬もジェネリック医薬品も扱うスペシャリティファーマーとしてのポジショニングを確立すべく営業体制を一層強化してまいります。

## 新中期経営計画 キックオフミーティングを終えて



新横浜プリンスホテルにて開催された  
『営業本部 新中期経営計画 キックオフミーティング』

営業本部では、新中期経営計画をスタートするにあたり、本年10月10日・11日の2日間にわたり、営業部門としては過去最大規模のキックオフミーティングを開催いたしました。当ミーティングには、MR（医薬情報担当者）だけでなく、営業本部の全てのメンバーが全国各地から総勢300名が集まりました。営業本部内で想いを共有し、5年後のゴールイメージを持ち続けるための貴重な時間となりました。今後も情報提供に一層真摯に取り組み、患者様、医療関係者様に信頼をおける企業として選んでいただけるように、さらにはあらゆるステークホルダーの皆様のご期待にお応えするために努めてまいります。



取締役  
営業本部長兼営業企画部長  
三橋 厚弥

## 会社概要 | 2014年9月30日現在 |

会社名 富士製薬工業株式会社 (Fuji Pharma Co., Ltd.)  
所在地 〒102-0075 東京都千代田区三番町5番地7  
設立 1965年4月  
資本金 37億9,910万円  
社員数 連結:1,469名(富士製薬:681名,OLIC社:788名)  
事業所

本社:東京  
支店:東京(関東第一・第二)、名古屋、  
大阪(大阪第一・第二)、福岡

営業所:札幌、仙台

工場:富山

研究所:富山研究開発センター

海外グループ会社 OLIC (Thailand) Limited  
<http://www.olic-thailand.com/>

## 役員 | 2014年12月19日現在 |

代表取締役	今井博文	取締役	武政栄	治
取締役	上出豊幸	取締役(社外)	小沢伊弘	
取締役	三橋厚弥	取締役(社外)	内田正行	
取締役	平山健	取締役(社外)	田中秀一	
取締役	小澤雅之	常勤監査役	徳永賢一	
取締役	宇佐見卓也	監査役(社外)	三村藤明	
取締役	山崎由美子	監査役(社外)	佐藤明	
取締役	井上誠一			

## 株式の状況 | 2014年9月30日現在 |

発行可能株式総数 28,220,000株  
発行済株式総数 15,626,900株  
株主数 3,195名  
大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
三井物産株式会社	3,437,500	22.00
有限会社F J P	2,146,500	13.74
今井 博文	2,025,000	12.96
テルモ株式会社	643,500	4.12
新井 規子	620,000	3.97
BBH FOR HEARTLAND VALUE FUND,INC.	500,000	3.20
今井 道子	423,000	2.71
RBC IST 15 PCT NON LENDING ACCOUNT	385,300	2.47
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	337,500	2.16
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)	272,900	1.75

(注) 持株比率は自己株式(89株)を控除して計算しております。

## 株主メモ

事業年度 毎年10月1日から翌年9月30日まで  
定時株主総会 毎年12月開催  
基準日 定時株主総会 毎年9月30日  
期末配当金 毎年9月30日  
中間配当金 毎年3月31日  
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

公告方法 電子公告(当社ホームページに掲載)  
<https://www.fuji-pharma.jp/ir/other/announce.html>  
ただし、事故その他やむを得ない事由がある場合には、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(電話照会先) ☎ 0120-782-031  
(インターネットホームページ URL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

上場証券取引所 株式会社東京証券取引所 市場第一部

### ●第50期期末配当金のお支払いについて

第50期期末配当金は、同封の「第50期期末配当金領収証」によりお支払いいたしますので、お近くのゆうちょ銀行全国本支店及び出張所並びに郵便局(銀行代理業者)で払渡期間内(2014年12月22日から2015年1月22日まで)にお受け取りください。なお、銀行預金口座への振込をご指定の方には、「配当金計算書」及び「お振込先について」を、株式数比例配分方式をご指定の方には「配当金計算書」及び「配当金のお受け取り方法について」を同封いたしますので、ご確認くださいようお願い申し上げます(株式数比例配分方式を選択された場合の配当金のお振込先につきましては、お取引の口座管理機関(証券会社)へお問い合わせください)。

### ●上場株式配当等のお支払いに関する通知書について

租税特別措置法の2008年改正(2008年4月30日法律第23号)により、当社がお支払いする配当金について、配当金額や徴収税額等を記載した「支払通知書」を株主様宛にお送りしております(同封の「配当金計算書」が、「支払通知書」を兼ねることになります)。なお、「支払通知書」は、株主様が確定申告をする際の添付資料としてご使用いただくことができます(株式数比例配分方式を選択されている場合は、お取引の口座管理機関(証券会社)へお問い合わせください)。



富士製薬工業株式会社 Fuji Pharma Co., Ltd.

■ IRに関するお問い合わせ

本社/管理部 〒102-0075 東京都千代田区三番町5番地7 精糖会館6F  
TEL : 03-3556-3344 FAX : 03-3556-4455

URL : <http://www.fuji-pharma.jp/>

